

んから夏中はおまへをおしこめて置かねばなりません、冬になつて花も葉も菓物なぞももうなんにも無いよふになつた時には外へ出てゆきあそんでよろしい、わたしか目にはおまへは氷か雪が相當で花や菓物なぞはひかぬと思へる』と申しわたされました。

考へもの

前號の解

(一)可愛い一人子の旅立どかけて

餅の入らないお汁粉ど解く

心は 餡汁(案じる)許り

(二)曲つた杉の木どかけて

飛脚ど解く

心は 走らにやならぬ(柱にやならぬ)



家庭

親馬鹿といふを讀みて

ふみ子

私は毎日子供を世話して居りますから、特にこの婦人どこともといふ雑誌を愛讀いたします。先日第十號の家庭欄にヒツポ、タモス、アイランド氏が親馬鹿と題して、子供の行爲について記されてあつたのを讀み、また、其扱い方に付いての間を出されてあつたのを見まして非常におもしろみを感じました、私はヒツポ、タモス、アイラン